

## 発 表 者

村田幸雄 氏

## タ イ ト ル

SPEED'98 改訂に対する期待、市民の立場から

平成 16 年 10 月 5 日  
(財) 世界自然保護基金ジャパン  
村田幸雄

## SPEED'98 改訂への期待、市民の立場から

### 1. SPEED'98 に対する評価

#### ①すばやい対応と策定

内分泌攪乱化学物質に対する国民の不安が募りつつある時期に、いち早く環境庁としての対応を戦略計画として発表したことは評価できる。また、2年後にその間の進展を反映させた追加修正版を作成したことも、本戦略計画が単なる作文ではなかったことを示した。

#### ②市民向けの配慮不十分

その記述が一般の市民にはやや難しく、理解を助けるような Q&A をつけたり、市民向けに解説した小冊子などの配慮があればなお良かった。

#### ③「内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質」リスト

一覧表として記載された「内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質」リストについては、一部から批判があった。しかし策定にあたって、当時疑いのもたれている物質から優先的に実態を把握することとしたのは、非難されるべきではない。ただし、その後リストが硬直化し、2、3の削除はあったものの、新たに疑われる物質などは追加されることはなかったのは残念である。

#### ④国際的な取り組み

本文中の2. 具体的な対応方針の(4)国際なネットワーク強化のための努力において、国際共同調査、研究、シンポジウム開催に加え、POPs条約、PIC条約に対する積極的な姿勢を示し、また地球規模でのモニタリング活動への積極的な貢献を明言し、有言実行していることは高く評価する。

#### ⑤間接的な影響

SPEED'98の直接的な評価だけでなく、間接的に及ぼした影響、波及効果などもあわせて検討する必要はないだろうか。例えば国内では食品容器等を通じたBPA、ノニルフェノール、DEHPの人への暴露が急速に減少したこと、また、国際的には学術・研究面における日本の貢献が増大したことなどに少なからず寄与したものと考えられる。

### 2. 改訂への期待

#### ①内分泌攪乱化学物質問題の現時点における総合的評価

環境ホルモン問題は一部の動物には有害な影響があっても、人への影響はなく心配する必要はない、といった不正確な認識が広まりつつある。まずこれまでの国内外における研究成果等を総合的に評価し、「いったい内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)問題とはどれほど重大な問題と考えているのか」を市民にわかりやすく、的確に提示すること。市民にとって単なる試験結果の羅列だけでは、その意味を正しく汲み取る

のは難しい。

#### ②生きている戦略計画

環境ホルモン問題はいまだ未解明の部分が大きく、今後の新たな科学的知見や国内外の新たな取組みなどに適切に対応できることが望ましい。本戦略計画の進捗の点検と併せて1~2年毎にレビューし、必要に応じた修正等ができるようにすべきではないか。

#### ③現実の複数物質暴露を想定した研究

実際の社会では人も野生生物も複数の化学物質に複数の媒体を通じて暴露されているわけであり、これまでの単一物質だけの試験体系とは異なるアプローチも検討すべきではないか。

#### ④化学物質リスト

一握りの疑われる化学物質リストを対象にすることから、暴露可能性のある化学物質全てを対象に、問題のありそうな物質を体系的に絞り込むアプローチは賛成である。その際にはプロセスの透明性を確保し、作業物質リストなども遅滞なく公表されることを望む。

#### ⑤リスクコミュニケーション

本戦略計画の内容が市民にもわかりやすく取りまとめられることは重要であるが、文書の性格上限界がある。また別途、市民向けパンフレット等を作成することも必要であろう。しかし、そのような紙媒体だけでは情報量が限られ、多様な関心を持つ様々なレベルの市民の関心に応えきれない。そこで、より効果的なリスクコミュニケーションを図る目的で、新戦略計画の解説のみならず、最新の正確な情報提供や意見交換ができるような環境ホルモン問題専門のホームページを新たに設けることを提案したい。

以上